

山形県言語聴覚士会発足10周年記念大会ならびに言語聴覚の日特別講演開催報告

山形県言語聴覚士会 10周年記念・言語聴覚の日特別講演



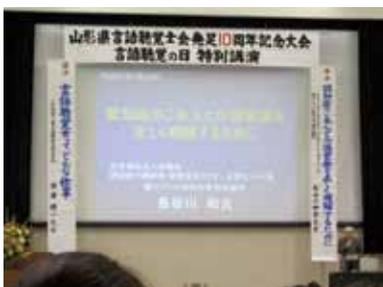
大会長 田口 充
 実行委員長 横尾 佳朗

まだ残暑の残る平成24年8月25日(土)、山形県言語聴覚士会発足10周年記念大会ならびに言語聴覚の日特別講演会を、山形ビックウィングにて開催しました。講演会には山形県言語聴覚士会会員の他、県内の医療・福祉関係者や一般市民の方々など約250名が足を運んでくださいました。会場には言語聴覚士の仕事内容を紹介するブースを設け、言語聴覚士を紹介するパネルの展示やDVDの放映を行いました。一般の参加者には言語聴覚士や言語聴覚障害に対する理解を深めて頂くため、高次脳機能障害や嚥下障害などをわかりやすく説明するパンフレットを山形県言語聴覚士会ロゴマーク入りのクリアファイルに入れ、配布しました。

大会では日本言語聴覚士協会会長である深浦順一先生、社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター 名誉センター長 聖マリアンナ医科大学特別顧問である長谷川和夫先生にご講演いただきました。

深浦先生には「言語聴覚士ってどんな仕事?」と題し、一般の方々に広く知って頂けるよう言語聴覚士の仕事内容の紹介映像や、言語聴覚士の歴史から現状までをわかりやすくご講演いただきました。

長谷川先生には「認知症のご本人と介護家族を正しく理解するために」というテーマで、先生が考案され広く医療機関で使用されている長谷川式認知症スケールの正しい実施方法について解説をいただき事が出来ました。また、認知症の患者様のケアについてその技法や環境、ケアのポイントなど、認知症の患者様の視点に立ち、寄り添う心と新しい絆を作っていく事の重要性を改めて学ぶ事が出来ました。



講演会後には会場を移し、山形県言語聴覚士会発足10周年記念式典ならびに祝賀会が行われ、山形県言語聴覚士会会員、ご来賓の方々など合わせて約70名にご参加いただき盛大に行われました。記念式典では深浦先生をはじめご来賓の方々からご祝辞を頂き、県士会発足から10年、これまで山形県言語



聴覚士会の発展に多大なご尽力を頂いた先生方への花束贈呈が行われました。その後の祝賀会では、山形の夏の風物詩「花笠踊り」の披露や、ビンゴ大会など和やかな雰囲気でお会を終える事が出来ました。

山形県言語聴覚士会は発足から10年という節目の年を迎え、改めて我々の役割を考え、会員同士の絆を深めると共に他医療従事団体との連携を強化していく事、更には一般県民への言語聴覚士・言語聴覚障害の啓発を目的とし、今大会を開催致しました。講演会には数名ではありますが、高校生の姿も見え、若い世代にも言語聴覚士という仕事があるという事を知ってくれている方がいる事をうれしく思いました。しかし、まだまだ知名度は低いのが現状であり、今後ますますの啓発活動が必要であると感じました。また、県内では言語聴覚士が配置されている病院や施設も増えてきてはいるものの、まだ県内を十分にカバーできていない状況です。今後も、このような活動を通し広く県民の方々に理解され、必要として頂けるよう会員が一丸となって努力していきたいと思っております。全国的にも若い言語聴覚士が増えてきました。山形県も同じです。今回は若手メンバーが中心に企画したイベントでした。活気がありチームワークもよく、楽しく準備もできたことは非常に喜ばしいことでもあります。また当日も山形県の言語聴覚士がこの企画の趣旨を理解し力を合わせたことが大成功に繋がったと信じています。

最後に、山形県言語聴覚士会発足10周年記念大会ならびに言語聴覚の日特別講演の開催につきましては、山形県士会の実行委員の皆様はじめ、多くの皆様のご協力により大会を開催する事が出来ました。ご協力ありがとうございました。